

# 動き出した故郷

UWAJIMA SIGHTS 2025 開催レポート

## 宇和島 さきやロード



まちが美術館になつた  
1カ月

昨年10月25日から11月24日にかけて、宇和島の魅力を国内外に発信するアートフォトの祭典「宇和島フォトフェスティバル2025 UWAJIMA SIGHTS」が開催されました。国内外の優れた写真家たちのアート作品が宇和島城やさきやロードに現れ、宇和島のまちが美術館と化しました。

期間中は、さまざまな交流イベントや関連イベントが開催され、市内外から多くの来場がありました。今回の特集では、初開催となつた「UWAJIMA SIGHTS 2025」について、展示やイベントの様子を紹介するとともに、関係者へのインタビューを交えながら振り返ります。



## 見上げて、のぞいて、座って、作って

UWAJIMA SIGHTS 2025 には17人のアーティストが参加し、滞在制作含め、新作も多数展示されました。展示方法も、商店街につるしたり、床やシャッターに貼ったり、空き店舗をギャラリーにしたりとさまざまで、作品自体も、小さなのぞき窓から見る作品やクッションのように座れる作品、作って参加できる作品など、宇和島ならではの展示となりました。



## UWAJIMA SIGHTS 2025参加アーティスト

安藤瑠美、イナ・ジャン、岩根愛、吉楽洋平、小池健輔、シェルテンス & アベネス、チャーリー・エングマン、TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH (小山泰介、築山礁太、河原孝典)、濱田祐史、本城直季、森山大道、IMA next (グランプリ受賞作家1人、準グランプリ受賞作家2人)





会期中、きさいやロードや宇和島城がアーティストによる個性的な作品たちで彩られる中、さまざまな交流イベントも開催されました。きさいやロード内「sunp laza」跡は期間限定のアートブックショップに変貌。アーティストによるシルクスクリーンワークショップや子どもたちへの写真集プレゼント企画が行われ、「MIYOSHI」跡では、みかんの皮を組み立てて作品にするワークショップや展示がありました。その他、専門家によるガイドツアーや、滞在制作を行ったアーティスティベントによる報告会など、盛りだくさんの内容となりました。また公式イベントとして、天赦公園仮囲い

### 宇和島×アートII新発見

# 動き出した宇和島





ARK SIDE GALLERY  
 (1月12日まで)をはじめ、市民有志のプロジェクトチームによる企画や、高校生によるオープニング演奏や作品展示、宇和島にゆかりのある写真家のトークイベント、宇和島城の夜間開城などが行われ、宇和島の新たな見方や動きが感じられた1ヶ月となりました。



## 多様性を認め合えるのがアートの力

アトリエぱれっと 代表 清家 由佳さん



開幕当日、商店街にあんなに大きなアート作品が展示され、空き店舗がギャラリーになつている様を見て、とても心が躍りました。会期中は、いつもと違う雰囲気の人や外国人の来場が見られ、宇和島の可能性を再発見する大きなきっかけになつたと思います。

私自身、愛媛県アートコミュニケータ「ひめラー」としても活動している中、公式イベントの「对话型アート鑑賞ツアーアート」でファシリテーターを務めさせてもらい、とてもいい経験になりました。アートは説明や正解を伝えたり求めるものではなく、感じるものであります。もちろん感じ方や好きな作品を認め合って、自由にアートを楽しんでもらえればと思います。

は人それぞれで、違つて当たり前。対話型鑑賞では、自分とは違う見え方が知れて、多様性を感じることができます。そして、それを認め合うことが大事で、それこそがアートの大きな力だと思います。海外ではアーティストに対してものリスクがすごいそうです。日本、特に地方では、まだまだアートやアーティストに対しても偏見や娯楽としての見方を感じます。アーティストは人生をかけて作品を制作しているし、本気で頑張っている人は、スポーツや音楽、美術、どんなことでも、輝いていてカッコいいと思います。私の教え子にも、アーティストを目指して本気で頑張っている子たちがたくさんいます。出来ることなら多くの人に応援してほしいし、理解してほしいです。アーティストに対するリスクがあれば、作品も違つて見えてくると思います。そして、見えたことや感じたことを認め合って、自由にアートを楽しんでもらえればと思います。



## アートと宇和島が結び合わされるきっかけに

べにばら画廊 代表 吉田 桃子 さん



今回、このような規模のアートイベントが宇和島で開催されたことは、純粹にうれしく思います。

私自身は、公式イベントの「会場サインをつくるう」ワークショップで講師を務めさせてもらいました。自分の作品がアーティストの作品とともに城山に飾られたことは特別な体験です。参加した子どもたちも楽しそうで、良い思い出になつたのではないか。また「PARK SIDE GALLERY」のような一般参加型の企画があったことも良かった点だと感じています。ただ、企画主旨がもう少し丁寧に伝わり、アートをより自由に捉えた表現があつてもよかつたのではないかとも感じました。アートフォトはまだ一

般に十分浸透しているとは言えず、戸惑いを感じた人もいたかもしれません。新たな魅力として根付かせていくためには、続けていくことが大切だと思います。当画廊でも「分からぬ」という声を多く聞いてきました。しかし、アートは分かる。分からぬだけで判断するものではなく、まず感じるものだと考えています。対話型鑑賞を行つているのも、そうした考え方からです。

この業界に従事する者として、アートや作家、そして地域の大切なものが無理のない形で関わり、結果として地域に還元されていくのであれば、とても望ましいことだと思います。一方で、地域活性化の名の下に、それらが消耗されるようになつてほしくないとも思つていて、宇和島の文化的な歴史と「なぜ今アートなのか」という問い合わせが、丁寧に結び合わされていくことを願っています。私自身も、これまで見聞きしてきた話が多くあるので、この機会に改めて学び直し、次へと伝えていきたいと考えています。



なんかイイなと思えれば、それでいい。

Uwajima Creative Community (UCC) 代表 奥谷篤巳さん



このような規模のアートイベントは今まで宇和島ではなかつたと思うので、そこに関われたことはとても貴重な機会になりました。他にもたくさんの関連イベントがあつて、新たな発見にもなりました。こういうイベントは、続けることが大事だと思うし、どう続けていくかが重要だと思います。

UCCは、今回のイベントをきっかけに立ち上がったプロジェクトチームで、地域にある良いものを新たな角度から見つめ直し、見合ったクオリティで発信することで、日常をちょっと豊かにしていくことを目的としています。今

て、すごくイイ牛鬼ができました。また、参加した人やその知り合いが、後日また見に来てくれたりもして、いろんなことに気付くきっかけになりました。ほかにもサインノタイプのワークショップやカフェでの交流イベントなど、場所や雰囲気も含めてUCCらしい企画ができて、来てくれた人にも楽しんでもらえたんじゃないかと思います。5人のメンバーの意見はもちろん、それ以外にもいろいろなアイデアをうまく落とし込めたし、メンバーそれぞれの得意なことが生かせた感じがして、UCCとしてもよかつたなと。「この感じ、なんかイイね！」みたいなことも言つてもらったりしたのですが、アーティストの作品も含めて、子どもとか大人とかも関係なく「なんかイイ」と思えればそれでいいんじゃないかと思います。グッとくるとか、そう思えるきっかけをUCCで作ることができいいなって思います。アートつ



回、公式イベントとしてUCCで3つの企画をさせてもらいましたが、どれもすごく面白いものになつたと思っています。企画の1つ「百面牛鬼」は、使われなくなつていた子ども牛鬼を修理して、期間中、会場に展示し、来場者の「魔除け顔」をその場で撮影・プリントして牛鬼に貼つていくというもので、最初は集まるか不安でしたが、たくさん的人が参加してくれ

Uwajima Creative Community

## 「百面牛鬼」&「アオノマチ～サイアノタイプで記録するまちのキオクと風景～」ロビー展

UWAJIMA SIGHTS 2025 期間中に公式イベントとして実施し、たくさんの人に参加してもらって出来上がった「百面牛鬼」と、「アオノマチ～サイアノタイプで記録するまちのキオクと風景～」で制作した作品を、市役所ロビーに展示します。

日 1月22日(木)午後3時まで 場 市役所



て、細部まで見たりして分かろうとすればするほど、よく分からなくなる気がして、ほんやり見るくらい、まぶたの裏で見るくらいがちょうどいいんだと思います。宇和島にもそういう部分がたくさんあると思うし、UCCならではの視点で、宇和島の「なんかイイ」ところを、自分たちも楽しみながら、楽しんでもらえることを企画していきたいです。

UWAJIMA SIGHTS 2025 の開催により、新たな動きや、これまでになかった価値観がもたらされ、宇和島の可能性が示されたと思います。

大事なことは、これを今後にどう生かしていくか。

宇和島の「未来」について、さらに多角的な視点で考えながら、見えてきたものを認め合いながら、みんなでつくりあげていければと思います。

